

平成28年度第1回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会
会議結果概要

1 開催日時

平成28年8月3日（水） 10:00～11:10

2 開催場所

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

3 出席者

(委員)

青木部会長、中村委員、眞鍋委員、山崎委員、渡辺委員、小島委員、大竹委員、橋本委員、石川委員

(事務局)

健康こども部：五十嵐部長

子育て支援課：菱木課長、高橋課長補佐、高仲係長

保育課：岡田課長、篠塚主幹、金光主幹、青嶋係長、北野主査

健康増進課：田中課長、中村係長

社会福祉課：高田課長

4 議題

(1) 事業所内保育事業の認可について

(2) 利用定員の設定について

(3) 子ども・子育て支援に関する現状と取組について

5 配布資料

- ・会議次第
- ・資料1 事業所内保育事業認可申請事業者概要
- ・資料2 利用定員の設定について
- ・資料3 子ども・子育て支援に関する現状と取組について

6 議事

○議題(1) 事業所内保育事業の認可について

○議題(2) 利用定員の設定について

(議題(1)及び議題(2)については関連があることから一括して議題とする。資料1及び資料2に基づき事務局から説明。事務局説明のとおり、事業所内保育事業の認可及び利用定員の設定について進めていくことが了承される。主な質疑応答等は、以下のとおり。)

委員：事業の認可や利用定員の設定について、市の基準や目安となる数値はあるか。

事務局：成田市子ども・子育て支援事業計画に掲げる数値目標が大前提である。その数値目標を達成できるよう、施設の拡充を行っている。

事務局：平成29年4月時点で待機児童を何とか解消できるよう進めているところである。

委員：先日、新しい中台保育園を見に行った際、ホール部分の茶色の外壁を見て威圧感を覚えたが、近隣住民の理解は得られているのか。

事務局：近隣住民の皆様には回覧で周知をしており、それに対する苦情も寄せられていない。

委員：時間帯によっては、子どもの送迎が集中し、施設周辺の道路で渋滞が発生することもあるかと思うが、近隣住民の理解は得られているのか。

事務局：ご指摘のとおり、保育園周辺においては、子どもの送迎が集中する時間帯に、施設周辺の道路で渋滞が発生しているという状況がある。ご迷惑をおかけしており申し訳なく思っている。

対応に苦慮しているが、現在は、保育士が交通整理を実施し、対応している状況である。

部会長：新しい中台保育園は駐車場で車の乗降ができるのか、それとも、道路で乗降をするのか。

事務局：駐車場で車の乗降ができる。

部会長：駐車場の入口と出口を別にしてロータリーのような乗降場をつくることは難しいのか。

事務局：敷地面積が狭いため難しい。駐車場を車が通過できるようにすると、車と子どもが接触する危険性が高まるという問題も発生する。

委員：今回議題として挙げた「(仮称)なかよし保育園」以外に、市内に事業所内保育事業所はあるのか。

事務局：地域型保育事業としての認可を受けようとする事業所内保育事業所は、この「(仮称)なかよし保育園」が成田市で初めてである。

委員：市としては、地域型保育事業における事業所内保育事業所を増やしていきたいと考えているか。

事務局：現状では、成田市子ども・子育て支援事業計画に掲げた事業所内保

育事業に係る数値目標に及ばない。計画外の施設整備が進んでいる状況ではあるが、待機児童が解消されるまでは、事業所内保育事業所は増やしていきたいと考えている。

部会長：この度、中台保育園の改修工事により定員が24人増えることとなるが、今後改修が予定されている吾妻保育園や玉造保育園も改修に伴い定員を増やすのか。

事務局：吾妻保育園については6人の定員増、玉造保育園については40人の定員増とする予定である。

委員：施設整備が進むようだが、待機児童解消の見込みは。

事務局：待機児童の人数は直近の数字で49人、入所待ち児童の人数は110数名であり、入所待ち児童も全て解消できればと考えているが、公立保育園の定員の増員だけでは、入所待ち児童は解消できないと思う。

委員：待機児童の解消策を進めるなかで、保育士の採用も増やすのか。

事務局：公立保育園については、来年度の保育士の採用を増やす予定である。来年度に向けて、民間も含めて市全体で新たに70数名の保育士が必要となる。現在、市では非常勤の保育士を募集しているが、なかなか集まらないという状況である。船橋市では、保育士の賃金水準を他市町村よりも高くして保育士を集めているという話も聞いている。競争になると思うが、何とか保育士を確保したい。

委員：成田市における地域限定保育士の現在の状況はどうなっているか。

事務局：平成27年度、成田市における地域限定保育士が200数十名誕生し、そのうち、民間も含めた数字で11名が成田市内で勤務している。その他の情報については把握できない状態である。

部会長：委員の意見を参考に適切に事業を進めていただきたい。

○議題（3）子ども・子育て支援に関する現状と取組について

（資料3に基づき事務局から報告。主な質疑応答等は、以下のとおり。）

委員：児童ホームについては、夏休みのみの利用希望も多いが、利用定員の関係もあり、なかなか子どもが通っている学校の児童ホームに入所できないという状況がある。子どもが通っている学校と違う学校

の児童ホームへの入所は子どもとしても親としても不安だと思うので、職員の人員配置等を工夫し、子どもが通っている学校の児童ホームに入所できるようにしてほしい。

事務局：可能な限り、通っている学校の児童ホームに入所できるようにしたいと考えており、夏休みには非常勤職員を約100名増員するといった対応をしているが、利用定員は施設の面積による制約がある。年々希望者も増えていることは把握しているが、施設の改修等については、すぐに対応できない面もある。

委員：夏休みに、もりんぴあこうづにおいて、キッズタウンNARITAというイベントを実施している。子どもたちは約10日間の準備を経て、本番に臨むのだが、実際にやってみると、イベントの準備も含めて、夏休みの子どもの居場所としても機能していることに気づいた。

単純に施設を増やすだけではなく、公民館等の既存の施設を使って子どもの居場所をつくることも重要だと考える。

事務局：関係各課と協議しながら、そのような機会や場を増やしていきたい。

委員：小学校高学年になっても児童ホームが使えると助かる。

事務局：子ども・子育て支援新制度の中では、児童ホームは小学校6年生まで使えることとなったが、利用定員を超えてしまうと、どうしても低学年のお子さんを優先せざるを得ない。学校の空き教室を使えないかなどの相談もしているところであるが、安全管理の問題もあって、なかなかうまくいかないが、出来るところから進めていきたい。

事務局：子どもの居場所づくりについての補足説明であるが、教育委員会で「放課後子ども教室」という取組みを実施しており、国の方針に基づき、児童ホームと一体的に取り組んでいる。また、高学年の児童ホームの利用についての補足説明であるが、現在は、保育園から小学校に進んだ場合、児童ホームも保育園と同様に使っているが、保育園は、就労時間が月60時間以上の場合には利用できるが、それ未満の場合は利用できず、一時保育などで対応している。一方、児童ホームは、定員に空きがあれば就労時間の制約なく使うことができるので、一時預かり的な部分もフォローできているのではないかと思われる。

部会長：最近、外国でテロなど物騒な事件が起きているが、保育園や児童

ホームで何か事件が起きた時に、対応できる体制は整っているか。

事務局：保育園も児童ホームも、不審者や不審物については常に目を光らせている。ご存じのとおり、先日、千葉県内の保育施設に対し爆破予告があったが、その際にも、対応をさらに充実するよう徹底した。もっと考えなければならないこともたくさんあるだろうし、まだまだ不十分かもしれないが、事件を未然に防げるよう、できるところからやっている状況である。

部会長：未然に防げるのが一番いいが、もしも事件が起こってしまったときにどう対応するか、どう連絡するか、などの体制が整っているといい。

委員：先日の爆破予告の際に、はじめてのことで不安もあったので、どのように対応すればよいかという対応策等を市から示してほしい。なかなか統一するのは難しいと思うが。

事務局：ご指摘のとおり、はじめてということもあり、市として対応策をお示しできなかった。その反省も踏まえながら、今後マニュアルを作成し、提示させていただきたい。

部会長：職員の防犯訓練のようなものは実施しているか。

事務局：やっている。また、避難訓練も実施している。

委員：保育園の職員は女性が多い。防犯訓練をしているが、男性がパトロール等してくれると心強い。

事務局：男性の保育士も増えてきてはいるものの、やはり女性の保育士の方が多い状況である。

事務局：さすまたを施設に配置したり、さすまたを使った訓練について警察の指導をうけたり、青パトの方が立ち寄るなどの対応はしているところである。

部会長：病児・病後児保育は今進んでいるということなので、頑張ってもらいたい。

委員：他市の事例であるが、保育士の資格はないものの、育児経験の豊富なママさんたちが、責任ある立場ではなくあくまで保育士の補助という形で、現場の保育士にアドバイスをしたり赤ちゃんの面倒をみたりしているという事例がある。保育士の質の確保という問題もある。

るかと思うが、今後、保育士の確保が難しくなっていく中で、子どもを見る目を増やすという意味でそのような取り組みをご検討いただきたい。

事務局：現状では、時間外の対応については保育士の資格を持たない人にもご協力いただいている。対象範囲を拡大していくことについては、検討したい。

事務局：厚生労働省令の改正に伴い、時間外や子どもが少ない時間帯については、保育士を一定以上配置すれば、残りの必要人員について、小学校教諭や幼稚園教諭、養護教諭、子育て支援員研修修了者を配置できることとなった。県と成田市においても、この省令改正に対応するための条例改正を、平成28年6月議会に提案し、議決を得ている。また、この配置基準の改正については保育園等にも情報提供したところである。

成田市では、平成27年度に24名が子育て支援員研修を修了している。今年度も子育て支援員研修の募集も行うので、研修を修了していただき、携わってくださる方が増えればと思う。

部会長：これらの意見を参考に組みこんでいただきたい。

○その他の質疑応答

委員：公立保育園は月2回の園開放を実施しているが、園の人からお話を伺いながら園の見学ができるような機会があるとよい。

委員：うちの私立保育園では、月曜日から金曜日まで園開放を行っており、自由に来てもらって、その中で話を聞きたいということであれば対応しているが、その先になかなか進めない。電話等を掛けてもらえればこちらも対応しやすいが、電話を掛けるのはハードルが高いと感じている人もいるようである。

事務局：そのような相談を受けることも目的の1つとして、今年度の4月から、保育課の中に保育園の園長経験者を再任用で保育支援員として配置している。気軽に相談していただきたい。

委員：「なりた子育て応援サイト」の現在の状況は、いかがか。

事務局：なかよしひろば等の行事を掲載した際にアクセス数が伸びたりするので、見ている人も多いと思う。

7 傍聴

傍聴者 2人